



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## 七尾のななこ

恵寿総合病院 酒井 珠美

戌年は、一愛犬家としては、特別感があって思い入れがある。戌年にかこつけて犬への思いの丈を書かせてもらおうと思う。

富山の実家で5歳になる柴犬を飼っている。私は現在2度目の七尾生活をおくっているが、以前ここに勤務していた5年前に実家に連れて帰った犬だ。1代目のまり(雑種)が亡くなって3年。祖母と父、母の大人だけの生活は、食事中も会話なしで、テレビをBGMに黙々と食べているような毎日だった。このままでは笑うこともなく、3人ともぼけてしまうのではないかと不安にかられた。まりは捨て犬だったのを私が小学生の頃、父がもってきた。毎朝5時過ぎになると部屋の戸をノックして祖母を起こしに来る。平日は祖母が朝夕散歩に連れていき、週末になると父は夜明け前からまりを連れて山に散歩に出かけ、家では、まりが一家だんらんの中心だった。私もどれだけ受験のストレスを癒してもらったかしのれない。きっと祖母が90近くになっても元気なもの、散歩に連れ出してくれたまりのおかげだと思う。なんでもない日常も、犬が一匹いるというだけで、その一挙手一投足が家族の話題になり、みんな笑顔になる。そんな私の不安から、ななは実はネットで探した京都のブリーダーから購入したのだが、犬を買ったという父は怒るに違いないので、引き取り手がなくても良かったということにした。父は、ニュースでペットブームの話が出る度、「おもちゃじゃないんだぞ。命なんだから」とよく私に諭していた。確かに台風の日だって雪の日だって散歩をなしにするわけにはいかない。犬を飼うということは食費や医療費にお金もかかるし、旅行に行くも制約がでてくるし、何より一生面倒をみてあげる責任が伴う。安易に飼えるものではないことはわかっていたが、それでも、まりがいた頃の幸せな時間が忘れられなくて思いきった。七尾で生まれたと思いついでいる両親はななと名付けてななこ、ななことかわいがっている。車のナンバーも7753(ななこさん)にしている。私にとっては2代目の犬になる。生活を共にしているわけではないので、十分な世話をしやれないが、それでも帰る度に大喜びで迎えてくれて、我が家の中心的存在になっている。ななもまりと同じように育てているはずなのに、性格はまるで違う。犬だって個性があって唯一無二の存在なのだと思えてくる。心を見すかすような眼でじっと見つめてきて、気持ちが通じ合ったように思えるときもあれば、のほほんとして何の心配事もない様子にこちらの心が軽くなることもある。

患者さんとの会話でも、犬の話がでると、心が動く。

「わしの仕事は犬の散歩くらいのもんで、別にどうなってもいいのだけど、犬を一人おいて先に逝くわけにもいかないから」と話す患者さんがおられた。奥さんに先立たれて犬との二人暮らしだという。金沢に勤務していた頃出会った間質性肺炎の患者さんだったと思うが、お元気だろうか。

犬の一生は数十年なので、自分より遅く生まれきても、最期をみることになる。いのちの大切さもまりやななが教えてくれたのだと感じる。